

### 3 地球環境にやさしい持続可能な循環型のまちに向けて

#### ■ 地球環境

##### 温暖化

計画目標 ・ 二酸化炭素等の排出が抑制されていること

##### 現 状

#### ■ 指標：二酸化炭素等の排出量の削減割合

基準年との対比では、温室効果ガス総排出量は、2002年度は-5.8%、2003年度は-4.2%でした。

二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素の排出量は、基準年と比べて増加しました。

ハイドロフルオロカーボン類、パーフルオロカーボン類、六ふっ化硫黄は、大幅に減少しました。

市内の温室効果ガス排出総量（新算定値）と基準年対比

温室効果ガス	基準年 万トンCO <sub>2</sub>	2002年 万トンCO <sub>2</sub>	2003年 万トンCO <sub>2</sub>	2002年/基準年 %	2003年/基準年 %
総排出総量	2,548	2,400	2,441	-5.8	-4.2
内					
二酸化炭素	2,280	2,321	2,376	1.8	4.2
メタン	1.2	1.4	1.5	13	19
一酸化二窒素	20	24	24	24	23
訳					
HFCs	9.9	4.7	5.8	-53	-42
PFCs	37.4	5.6	4.0	-85	-89
六ふっ化硫黄	200	43	30	-79	-85

##### オゾン層破壊

計画目標 ・ オゾン層破壊の原因となる物質の排出が抑制されていること

##### 現 状

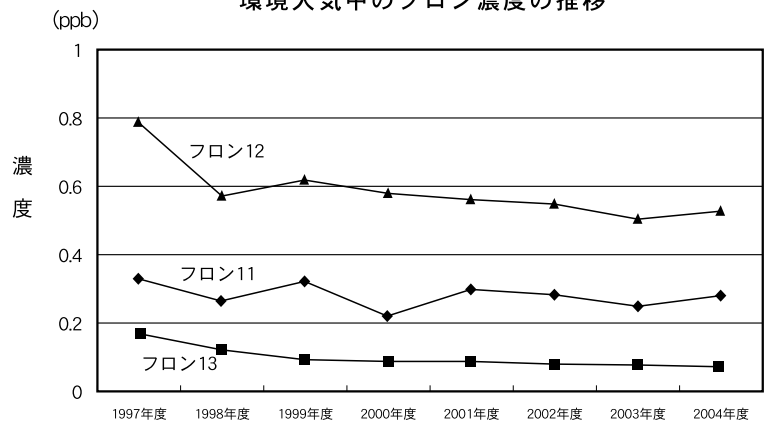
#### ■ 指標：特定フロンの環境濃度

市内4地点（池上自動車排出ガス測定局、大師・中原・多摩一般環境大気測定局）で、毎月主な特定フロン（CFC）の環境濃度を測定しています。

2004年度における4地点の平均濃度は、フロン-11が0.29ppb、フロン-12が0.54ppb、フロン-113が0.08ppbとなっています。

これらの特定フロンはすでに生産されていませんが、様々な分野で使用されているため、環境濃度はほぼ横ばいの状態が続いています。

環境大気中のフロン濃度の推移



##### オゾン層（破壊）

地球を取り巻く厚さ約20kmのオゾン層を多く含む層。物に有害な紫外線の多くは、成層圏のオゾン層で遮られている。近年、南極地域における成層圏のオゾン層が著しく少なくなる「オゾンホール」が毎年発生しており、世界的にも低緯度地域以外では成層圏のオゾン量が減少する傾向にある。オゾン層が破壊されると、地上に達する紫外線の量が増え、皮膚がんの増加や生態系への影響が懸念される。

## 酸性雨

計画目標 ・ 酸性雨の原因となる物質が抑制されていること

### 現 状

#### ■ 指標：窒素酸化物、硫黄酸化物の総排出量

(2000年現在の排出量より減らすことを目指す。)

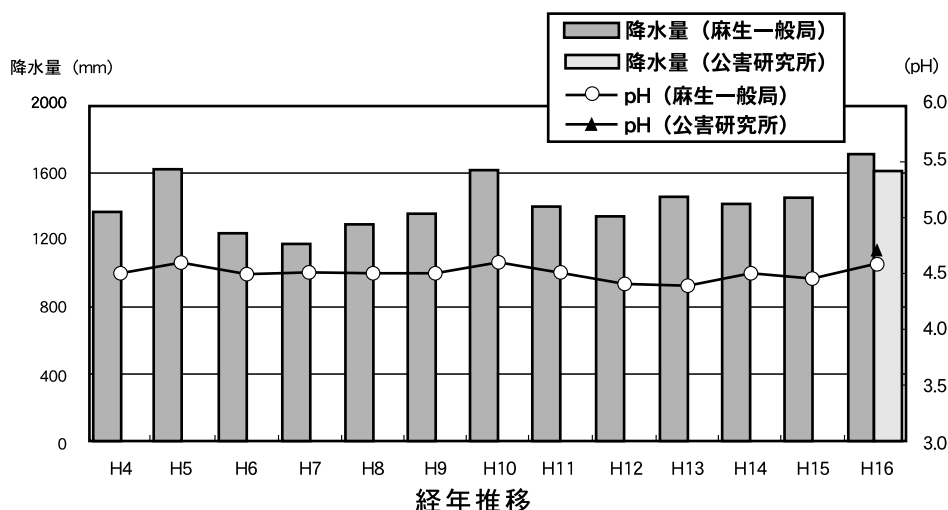
- 窒素酸化物：市内の工場・事業場からの排出総量は、10,330トンで2000年排出量(10,682トン)と比べると約3.3%減少しました。
- 硫黄酸化物：市内の工場・事業場からの排出総量は、1,022トンで2000年排出量(1,431トン)と比べると約28.6%減少しました。

市内工場・事業場からの窒素酸化物、硫黄酸化物の排出量

年度	2000	2001	2002	2003	2004
窒素酸化物(トン/年)	10,682	10,608	10,708	10,883	10,330
硫黄酸化物(トン/年)	1,431	1,124	1,035	1,076	1,022

降水のpH等の測定については、1991年8月から麻生一般局に、2003年12月から公害研究所(川崎区田島)にそれぞれ降雨雪自動採取測定装置を設置し、行っています。

2004年度の年間降水量は麻生一般局が1,698.5mm、公害研究所が、1,599.5mmであり、pHの年平均値は麻生一般局が4.60、公害研究所が4.69でした。



## 森 林

計画目標 ・ 持続可能な森林資源の保全に貢献していること

### 現 状

#### ■ 指標：公共工事における熱帯材使用率 (2000年現在の使用率より減らすことを目指す。)

公共工事における熱帯材の使用状況をまちづくり局発注工事の状況でみると、2003年度で、工事延床面積17,120㎡に対して、熱帯材型枠の使用量は0㎡となり、目標が達成されました。

	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度
工事延床面積 (㎡)	76,000	41,800 (-45%)	29,928 (-61%)	17,120 (-77%)
熱帯材型枠使用量 (㎡)	17,300	12,160 (-30%)	2,079 (-88%)	0 (-100%)
単位面積当たり使用量 (㎡/㎡)	0.23	0.29 (+26%)	0.07 (-70%)	0 (-100%)

注 表中の ( ) は、2000年度比の値

## 主な施策の概要

具体的施策名	2004（平成16）年度実績	2005（平成17）年度計画等
<p>Ⅲ-1-1 地球温暖化の防止</p> <p>Ⅲ-1-1-1 ライフスタイル・産業活動の改善</p>		
<p>「温暖化物質の排出抑制に関する指針」に基づく事業所への指導の実施</p> <p>【環：企画対策課】</p>	<p>□指導件数：39件（－1件）</p>	<p>□予定件数</p>
<p>市民、事業者、学校、行政による川崎市地球温暖化対策地域推進計画の推進</p> <p>【環：地球温暖化対策担当】</p>	<p>□取り組み状況（2004年度を記載）</p> <p>○市民部会 [グリーンコンシューマグループ] ・地元商店街と協働してマイバック持参の取組を推進 ・川崎発エコショッピングがイトホームへの立ち上げ[省エネグループ] 市レベルで省エネを推進する「省エネチャレンジ」を実施。2005年1月現在396世帯が参加 市内町内会での省エネ出前講座の実施 [ソーラ共同発電チーム] 2004年11月に東高根森林公園において学習会「太陽と遊ぼう！」を開催 [交通環境グループ] 環境局交通環境対策課と協働し、踏み切り待ちアイトリングストップ体験活動やかわさきエコドライブのすすめ講演会を実施</p> <p>○事業者部会 ・第7回川崎市地球環境フォーラムへの参加 6企業・団体が参加 ・アンケートの実施 地球温暖化防止に関する取組の実践状況を調査するアンケートを実施</p> <p>○学校部会 ・省エネ教育推進校打合せ会の実施 ・エコショッピング・クッキングへの参加 小田小学校での講座実施及び総合教育での教員向け講座実施</p> <p>○行政部会 ・市役所エコオフィス計画の実施 ・平成15年度グリーン購入推進方針の策定（2004年4月、17分野、203品目） ・自転車利用システムの推進： 本庁舎10台導入 年間延べ利用台数：4,098台（+1,295台）</p> <p>○第7回川崎市地球環境フォーラムの開催 （2005年1月24日、川崎市産業振興会館、約500名参加）</p>	<p>□予定</p> <p>○市民部会 [グリーンコンシューマグループ] ・マイバックコンスト貸し出しセット作成 ・エコショッピング・クッキング普及啓発教材の作成 [省エネグループ] 学校部会と協働した夏休みエコライフチャレンジの実施 [ソーラ共同発電チーム] 環境学習・普及啓発活動の実施、学習会・見学会等の参加及び実施 [交通環境グループ] ・アイトリングストップキャンペーンの開催 ・エコドライブスクールの開催</p> <p>○事業者部会 ・地球温暖化防止に向けた市内事業者等に対する普及啓発活動 ・事業者の取組状況の実態把握</p> <p>○学校部会 ・省エネ教育推進校打合せ会の実施 ・エコショッピング・クッキングへの参加 ・夏休みエコライフチャレンジへの協力</p> <p>○行政部会 ・市役所エコオフィス計画の実施 ・平成17年度グリーン購入推進方針（17分野、203品目）の推進、対象品目の追加見直しの検討 ・自転車利用システムの推進 ・公共施設におけるESCO導入検討</p> <p>○第8回川崎市地球環境フォーラムの開催</p>
<p>市役所におけるエコオフィス計画に基づく取組の推進</p> <p>【環：環境調整課】</p>	<p>「第4章 環境配慮指針の実施状況」の中の「市の環境配慮指針取組状況」参照。</p>	<p>□継続実施</p>

具体的施策名	2004（平成16）年度実績	2005（平成17）年度計画等
フォーラム等開催による温暖化防止に向けた意識啓発  【環：環境調整課】	第7回川崎市地球環境フォーラムの開催 2005年1月24日、川崎市産業振興会館、約500名参加 ○環境省作成のポスター、各種パンフ等 ○八都府県共同で地球温暖化防止キャンペーンの実施 2002年7月～8月に行政機関、教育関係機関、事業者等にポスター、パンフレット、ステッカー等を配付 ○夏の省エネイベントの開催 2004年6月23日、JR川崎駅	<input type="checkbox"/> 継続実施

### Ⅲ-1-1-2 自動車交通対策の推進

自動車交通対策の推進	【Ⅲ-1-1 施策参照】	【Ⅲ-1-1 施策参照】
------------	--------------	--------------

### Ⅲ-1-1-3 緑の保全及び緑化の推進

北部の多摩丘陵をはじめとするまとまりのある緑の保全	【Ⅲ-2-1、Ⅲ-2-2 施策参照】	【Ⅲ-2-1、Ⅲ-2-2 施策参照】
市街地における公園・緑地の整備及び屋上緑化・壁面緑化等による新たな緑の創出	【Ⅲ-2-3 施策参照】	【Ⅲ-2-3 施策参照】

### Ⅲ-1-1-4 廃棄物対策の推進

廃棄物の発生抑制の推進	【Ⅲ-2-1 施策参照】	【Ⅲ-2-1 施策参照】
廃棄物の再利用及び再生利用の推進	【Ⅲ-2-2 施策参照】	【Ⅲ-2-2 施策参照】
廃棄物の適正処理の推進	【Ⅲ-2-3 施策参照】	【Ⅲ-2-3 施策参照】

### Ⅲ-1-1-5 エネルギー対策の推進

省エネルギー対策の推進	【Ⅲ-3-1 施策参照】	【Ⅲ-3-1 施策参照】
自然エネルギー・未利用エネルギーの利用の推進	【Ⅲ-3-2 施策参照】	【Ⅲ-3-2 施策参照】

### Ⅲ-1-1-6 調査研究及び広域的取組の推進

定期的な二酸化炭素等の排出量の実態把握の実施  【環：地球温暖化対策担当】	<input type="checkbox"/> 調査実施状況（2002年度） 二酸化炭素：2,321万トンCO <sub>2</sub> メタン：1.4万トンCO <sub>2</sub> 一酸化二窒素：24.4万トンCO <sub>2</sub> HFCs：4.7万トンCO <sub>2</sub> PFCs：5.6万トンCO <sub>2</sub> 六ふっ化硫黄：43万トンCO <sub>2</sub>	<input type="checkbox"/> 調査実施状況（2002年度） 二酸化炭素：2,376万トンCO <sub>2</sub> メタン：1.5万トンCO <sub>2</sub> 一酸化二窒素：24.2万トンCO <sub>2</sub> HFCs：5.8万トンCO <sub>2</sub> PFCs：4万トンCO <sub>2</sub> 六ふっ化硫黄：30万トンCO <sub>2</sub>
代替フロンガスの環境濃度測定  【環：環境対策課／公害研究所】	<input type="checkbox"/> 調査実施状況 HFC-134aの環境測定に向けて、分析手法の検討	<input type="checkbox"/> 調査予定 引き続き分析手法の検討
国、近隣自治体との連携による温暖化防止の広域的対策の推進  【環：環境調整課】	<input type="checkbox"/> 対策実施状況 八都府県市での共同取組(普及啓発等)	<input type="checkbox"/> 実施予定

### Ⅲ-1-2 オゾン層の保護

#### Ⅲ-1-2-1 オゾン層の保護

フロン回収法に基づく、フロンの適正な回収処理に係る指導の実施  【環：廃棄物指導課】	<input type="checkbox"/> 登録事業場数（累計）： ・引取業者：410業者（+121業者） ・回収業者：75事業所（+5業者） <input type="checkbox"/> 実地調査・指導等件数 ・引取業者：0業者 ・回収業者：0事業所	<input type="checkbox"/> 継続実施
--	--	-------------------------------

具体的施策名	2004（平成16）年度実績	2005（平成17）年度計画等
特定フロンの環境濃度の測定 【環：環境対策課／公害研究所】	<input type="checkbox"/> 特定フロン濃度（市内4地点平均値） ・フロン11：0.29ppb（+0.03ppb） ・フロン12：0.54ppb（+0.03ppb） ・フロン13：0.08ppb（±0ppb）	市内4地点で継続して測定
オゾン層保護に関する意識啓発 【環：環境調整課】	オゾン層保護に関するパンフレットの配布	継続実施

### Ⅲ-1-3 酸性雨の防止

#### Ⅲ-1-3-1 酸性雨の防止

工場等の発生源対策の強化と自動車公害防止対策等の推進	【I-1 施策参照】	【I-1 施策参照】
関係機関との連携による酸性雨に関する雨水の調査の実施 【環：環境対策課／公害研究所／公害監視センター】	<input type="checkbox"/> 調査状況 ・麻生環境大気測定局及び公害研究所で酸性雨モニタリング調査（通年）	継続実施

### Ⅲ-1-4 森林の保全

#### Ⅲ-1-4-1 森林の保全

熱帯材の型枠、下地材、内装材の使用抑制 【ま：検査課】	<input type="checkbox"/> 目標達成	<input type="checkbox"/> 目標達成
熱帯材使用の抑制に関する普及啓発 【ま：検査課】	<input type="checkbox"/> 目標達成	<input type="checkbox"/> 目標達成
再生紙の利用促進、古紙の分別及び再生利用の徹底 【環：環境調整課／減量資源課】	<input type="checkbox"/> 庁内から出る紙ごみの回収量、増加率 ・庁内での7分別による紙ごみの回収量は244.21トンで前年比2.2%の減 ・原料古紙約61tからトイレットペーパーを作成。 約22,440ロールのトイレットペーパーを庁内で使用 <input type="checkbox"/> 古紙の分別、再生利用率 古紙 420t回収	<input type="checkbox"/> 継続実施

### Ⅲ-1-5 国際協力の推進

#### Ⅲ-1-5-1 国際協力の推進

環境問題の取組支援のための人材の派遣、研修生の受け入れ促進 【環：公害監視センター／公害研究所、経：アジア起業家支援事業推進室】	<input type="checkbox"/> 人材派遣数  <input type="checkbox"/> 受入数 ◇第7期瀋陽市環境技術研修生受入 ・中国・瀋陽市から2名、38日間 ・環境行政研修、環境専門技術研修他	<input type="checkbox"/> 受入数 ◇第8期瀋陽市環境技術研修生受入 ・中国・瀋陽市から2名、33日間 ・環境行政研修、環境企業研修他
---	---	---